

STEP-UP

平成30年度 第2号 12月
大田区立幼児教育センター
幼児教育担当 TEL(5744)1618

保育園、幼稚園、小学校では、運動会や発表会などの大きな行事を体験し、一段と成長した子どもたちの姿を頼もしく感じられていることと思います。さて今号では、今年度の「保幼小連携合同研修会」と「生活規範意識向上講座」についてお知らせします。

保幼小連携合同研修会(7~8月) — 保幼小の円滑な連携を目指して —

地域の保育園・幼稚園・小学校の先生方が一堂に会し、お互いの教育内容を理解するべくグループ協議を中心に構成しています。まず、保育園・幼稚園と小学校の生活の様子をパワーポイントで紹介しました。

次に、保育園・幼稚園、小学校の先生方から、日頃の保育・教育実践について話していただき、この実践事例をきっかけにして、各グループで意見交換を行いました。

【協議会テーマ】 ~ 保幼小の円滑な連携を目指して「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、学びの連続性について考えよう ~

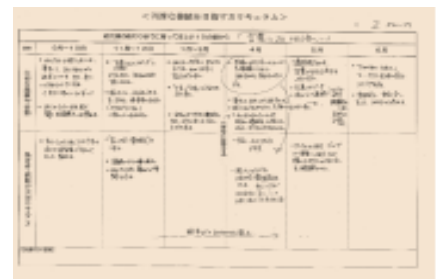
<ワークシート> 「円滑な接続を目指すカリキュラム」を作成しよう

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から、1項目を決めてクラスや学級の中で、子どもたちが主体的に考えて行動するために、「大切な経験や活動」と「保育者や教師が大切にすること」を出し合って挙がった意見を書き込んでいただきました。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から「決めた項目〇〇〇〇」 (0)グループ

	9~10月	11~12月	1~3月	4月	5月	6月
大切な経験や活動				小学校に入学する		
保育者や教師が大切にすること						

研修生が作成したワークシート



交わし合った意見

自立心



「4月にこれだけはできているといいな」という3点

- ①洋服をたためる…学校では体育着や給食の白衣を机上に置いて着替えることができず、床に広げる等個人差が大きい。園では、年少児の手伝いの機会にたたむことを取り入れる。家庭では、自分の洗濯ものをたたむとよい。
- ②身の回りの整理整頓…園では、自分が使った遊具だけではなく、クラスの片付け等もしていくとよい。
- ③困った時に助けを求める…学校では担任が近くにいることの方が多く、担任以外の教師が傍にいても、「言えない」という姿が見られる。幼児期には、沢山の人と話す機会をもち会話をする経験、周りとの関係づくりができるといいのではないかと話しました。

就学時には、自分の名前が読めて書けるといいと思います。下駄箱や机上に貼ってある名前もひらがなで書いてあるので読めないと困ってしまう。入学してから丁寧に教えていきますが、個人差が大きいことも事実です。苦手意識をもってしまうと国語科にも繋がっていくので、自分の名前が読めるだけでも大きく違うと思います。算数問題を解くにあたっては国語の力が基本になるので、幼児期には沢山話をし、何でそう思ったのか、何で楽しいと感じたのかなども話す機会があるといいのでは。

数量の捉え方として、全て「1個、2個」と表現する児童がとても多い。また、自分の年齢の数(例えば、6歳・7歳の6と7の数)が分かるようにしておくといいのではないかと話しました。生活の中で、大人も意識して「〇個」「〇枚」「〇匹」等を使っていき、その都度知らせていくことが大事ではないかと話しました。図形についても朝顔の観察画で、どんな形に見えるか聞くこともあるので、丸、ハート、星等の形を知っていることでイメージし易くなるのではないかと話しました。それは、幼児期に積み木や粘土等で遊んだ経験でも図形をイメージすることに繋がっていると思います。

1年生は、保育園や幼稚園で「これやったことある」という気持ちを多くもっていることで、不安なく進むことができ、そのような経験が自信に繋がっていくという話になりました。

数量・図形、文字等への関心・感覚



健康な心と体



身辺整理、身の回りのことを時間内にする。自分の気持ちを伝えることが自信に繋がり、子どもにそういう自信をつけてあげることが親の安定に繋がるのでは。偏食の子が多く、家で食べさせていないということもあり親は、「学校で食べているから安心」とか、「頑張っているのですけれど…」で話が終わってしまうこともある。親の気持ち全てが子どもに反映されるということを伝えながら指導していくことが必要になってくるかと思えます。

身支度やトイレでは、幼稚園・保育園がやってくれていることがとてもよく分かりました。今年の自校の1年生は教えなくてもできています。時間を見て行動することもできていて、何より凄いと思ったことは、「先生は1回しか言わないから。」ということを理解することが多かったのです。幼稚園・保育園でやってくださっていることを知ることができ良かったです。

2学期の9～12月は「人の話は最後までしっかり聞く」ように声かけをしています。話す時の姿勢に注意し自分の気持ちを伝えられるようにします。人のことは細かく言っても自分のことを相手に伝えられない、自分の痛みのことを伝えられない子が多いからです。この時期はおしゃべりが止められないケースが多くなり課題となっています。2学期の後半から3学期にかけては、声の大きさや友達の悪口や意地悪に対する指導もします。入学してからは、朝の会や帰りの会での連絡、スピーチ活動、国語科での感想の伝え合いを通じて、言葉による伝え合いを学んでいきます。

言葉による伝え合い



生活規範意識向上講座(7～8月) — 子どもの規範意識を育てるには —

区内を4つのブロック(蒲田、池上、大森、調布地区)に分け、講座を開催しました。講師の小学校健全育成委員会の校長先生からの講話をお聴きした後、参加した地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・児童館の先生方、保護者の方々とワークシートを基に協議会を行い、規範意識についての認識を深めました。

校長先生の講話<子どもの規範意識を育てるには>

- あなたの規範意識：いくつかの事例について、「自分ならこう考える」「自分ならそうする」という視点でAまたはBを選択し、自分の規範意識について考えました。
- 規範意識の定義：「法令など社会のルールの大切さを理解し、それらを守ろうとする意識」を再確認しました。規範意識とは、集団生活や社会生活におけるきまりやルール、約束などの規範に基づいて、主体的に判断し行動しようとする意識(生き方やスタンスといった内面的なもの)
- 規範意識を育てる取り組み：子どもからみた規範意識→知ること、重要だという認識、行動することで良さに気付くなど、規範意識を育む指導について→「教える」「気付かせる」「大切さを感じさせる」ことを大事にする。
- 学校での指導とその場面：校外時(遠足など)や給食時の指導。挨拶の指導。道徳科や学級会での振り返り。
- 子どもの規範意識を育てる指導を行う際に感じさせる言外の意味：信頼、周りの人との関わり、自他の幸福。
- 子どもの規範意識を育てるための行動指針：地域の中で子どもも親も顔見知りを増やす。(町内会、PTA等)

<ワークシート> 「公共の場で、他人に迷惑をかけず、お互いが気持ち良く過ごすためのルールやマナーを、子どもたちが身に付けるために」

公共の場でのルールとは? マナーとは? 公共の場のルール、マナーを守るために大人が果たすべき役割を視点を意見を出し合いました。

<協議会の中で出された意見>

- 保護者：スマホ、SNSは、学校や家庭のルールに合わせて使わせている。
小学校：姿勢や声の大きさは、褒めたり「声のものさし」で意識させている。
例) 発表する時の声、話し合いの時の声、隣の友達と話す時の声
保育園・幼稚園：声の大きさは、動物のイラストの表を見せて意識させている。
例) ネズミの声、犬の声、ライオンの声等、動物の大きさと声の大きさを比較できるように。
共通：話が聞けるようになるために、話をたくさん聞かせている。
座る姿勢は、褒めて意識させている。
- 公共のルールやマナーは、勉強とは別に学ぶべきもの。
 - 大人が果たすべき役割として、言葉の使い方、言い方、話し方などはその都度声を掛ける。また、大人が見本となる行動をとる。

